



平成 21 年 8 月 6 日

各 位

会社名 ダイナパック株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 飯田 真之  
 コード番号 3947  
 (東証・名証第 2 部)  
 問合せ先 執行役員経理部長 山田 良文  
 電話番号 (052) 971-2651

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 12 日付けの「業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ」で公表いたしました、平成 21 年 12 月期連結業績予想および個別業績予想を下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。

記

### 1、業績予想の修正

#### (1)平成 21 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想の修正

(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

連結予想数値の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	22,000	△450	△350	△2,060	△41 円 55 銭
今回修正予想 (B)	22,290	175	340	△1,250	△25 円 22 銭
増減額 (B-A)	290	625	690	810	—
増減率 (%)	1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	25,715	690	813	319	6 円 43 銭

#### (2)平成 21 年 12 月期通期連結業績予想の修正 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

連結予想数値の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	47,000	△500	△450	△1,100	△22 円 19 銭
今回修正予想 (B)	47,400	550	750	150	3 円 03 銭
増減額 (B-A)	400	1,050	1,200	1,250	—
増減率 (%)	0.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 12 月期)	52,207	921	868	△1,129	△22 円 75 銭

(3)平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想の修正  
(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

個別予想数値の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,600	△300	0	△1,320	△26 円 62 銭
今回修正予想 (B)	16,000	△55	250	△1,075	△21 円 69 銭
増減額 (B-A)	400	245	250	245	—
増減率 (%)	2.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	18,091	350	524	296	5 円 96 銭

(4)平成 21 年 12 月期通期個別業績予想の修正 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)  
個別予想数値の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	32,000	△400	△110	△100	△2 円 02 銭
今回修正予想 (B)	32,800	△400	△100	△220	△4 円 44 銭
増減額 (B-A)	800	—	10	△120	—
増減率 (%)	2.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 12 月期)	36,768	716	765	△911	△18 円 34 銭

2、修正の理由

(1)連結業績

売上高、営業利益および経常利益の増加につきましては、段ボール製品販売数量が第 1 四半期前年同期比 84.2%から当第 2 四半期は 92.4%と回復基調で推移をいたしました。海外では現地の内需企業向けの販売が好調なハノイの子会社が大きく販売を拡大させております。さらに、厳しい経営環境にあつて原材料費および運送費などの引き下げや総人件費抑制策および役員をはじめ年俸者の報酬カットなどの経費圧縮による収益回復を進めてまいりました。今後も収益改善が見込まれるものと予想されるため修正をするものであります。

なお、当期純利益の増加につきましては上記の増加理由の他に、本日別途発表しております「特別損失の計上に関するお知らせ」にありますとおり、第 1 四半期で計上しました投資有価証券評価損を戻入処理しているためであります。

(2)個別業績

第 2 四半期累計期間の売上高、営業利益、経常利益および当期純利益の増加につきましては、上記の連結業績予想の修正理由と同じであります。なお、通期の業績予想が第 2 四半期累計期間の業績予想に比べて落ち込む理由につきましては、平成 21 年 5 月から稼働しました新工場のみよし事業所が、第 3 四半期以降において本格稼働をすることにより、減価償却費等の経費負担の増加が予想されるためであります。

また、通期の当期純利益の業績予想につきましては上記の増加理由があるものの、第 3 四半期以降に実施する事業再編等に伴い特別損失を計上することが予想されるためであります。

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断および仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合があります。

以上